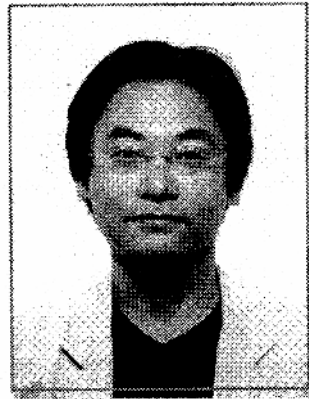


# 今、学校選択制を考える！

## ～講演と学習のつどい～

＜講師：勝山吉章さん＞

福岡大学人文学部教授



略歴  
一九五九年五月 奈良県生まれ  
広島大学卒  
名古屋大学大学院修了  
現在、福岡大学人文学部教授  
専門：教育学

とき：6月18日（日）

PM3：30～

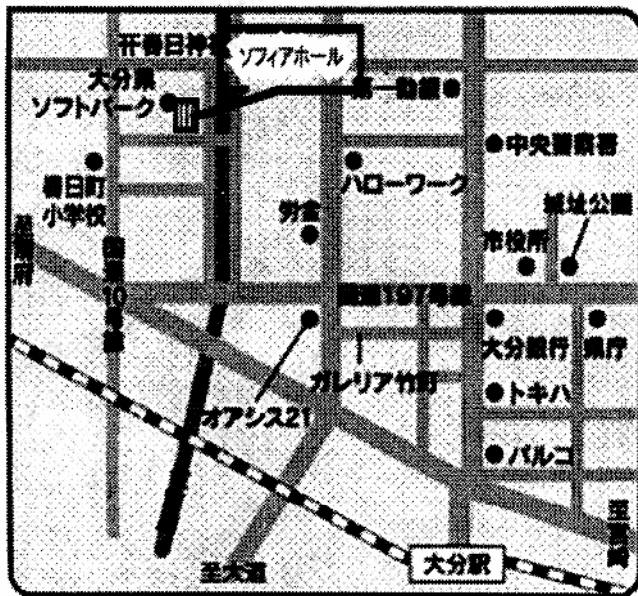
（開場3：00）

ところ：ソフィアホール 2F

大分市東春日町17番20号

ソフトパーク内 第2ソフィアプラザ

講演会協力券代300円



今、大分市教育委員会では、「小中学校隣接校選択制」の導入が検討されています。義務教育の段階にある全ての子どもたちが、健やかに伸び伸びと学習できる機会を保障することは、私たち大人の責任であり、義務なのです。また、子どもたちの生命の危ぶまれる昨今、「地域」「学校」「家庭」が強いつながりを持って、子どもたちを見守ることこそ最優先の課題です。そんな時に、果たして「学校を選択する」ということが必要かつ有効なのか、学習と意見交換の場を設けて、広く呼びかけたいと思います。

この集いに、是非お誘い合わせの上、御参加ください。

### 交通のご案内

大分駅より大分交通路線バス高砂町停留所（所要時間約10分）で下車、徒歩5分。または、大分駅より徒歩20分。（大分駅よりタクシーご利用の場合は所要時間7分程度）また、車でお越しの方は、オアシス21屋内・外駐車場がありますので、ご利用ください。

● 主催 / 学校選択制を考える会

代表：脇屋光代

連絡先：080-1706-9701（脇屋） 090-9576-7651（尾中）

いっしょに考えましょう 地域のつながりは？  
大分市小中学校 子供会活動はどうなるの？  
学校間の格差うまれる？



# 学校選択制の導入を急がないで！



大分市教育委員会は、来年4月にも通学する小中学校（新一年生のみ）を選ぶようにしようと急いでいます。（隣接校選択制）その理由として、①自分の家により近い学校に通うことが出来るようになるため、②各学校を「特色づくり」などで活性化（競争）させるためと説明しています。

はだして、ほんとに「学校選択制」は子どもたちにとってよいものでしょうか。導入前から次のような問題点も・・・

## 1、より近い子どもが、はじきだされる？

通学区域外からの希望者が多い場合、平等に抽選されることが予定されています。つまり、通学希望校から距離的に遠い子どもが当選し、より近い子どもが落とされることもおこり、「より近い学校に行ける」ことは保障されません。

今でもいくつかの条件（親の仕事場、人間関係等）のもとで通学を希望することはできます。「より近い学校」もこの弾力的運営の中で十分解決できるのです。

## 2、「地域」「家庭」「学校」の連携が台なし

登下校中の子どもをめぐる痛ましい事件・事故が後を絶ちません。今、小学校では、「地域」「家庭」「学校」が一体となって、登下校時のバトロールを行い、子どもたちを守る取り組みを行っている最中です。また地域の子供会活動もその中の大切な一つです。学校選択制は、「地域」「家庭」「学校」の連携に水をさし、自分の住んでいる地域をよくしていこうという気持ちを薄れさせていくのではないのでしょうか？さらに安全面で大きく危惧されます。

## 3、経済面などで不平等に

教育委員会は、通学区域外からの子どもの安全については、保護者の「自己責任」「自己負担」とはつきり言っています。つまり送り迎え可能な、経済的、時間的に余裕のある家庭しか選択できないという不平等がうまれるのではないのでしょうか？

## 4、すべての子どもに等しい教育こそ、公立小中学校の役割

教育委員会は、子ども・保護者を選んでもらえるような学校づくりを目指すことで「学校を活性化」させるとしています。今でも各学校は、地域に根ざした取り組みや様々な体験活動を実践しています。そもそも公立の義務教育の学校の役割は、教育基本法にもあるとおり教育の機会均等です。選択制により教育内容や先生の人事、学校予算等に格差が出てくるのではないのでしょうか？

## 5、学校間・地域間格差

「公立小中学校を選ぶ」ということは、「地域」を選ぶということにつながっていきます。地域間格差や地域差別を新たに生み出すことにならないでしょうか？

学校選択制にまつわる問題は、まだまだたくさんあると思われます。しかし、市民には十分には知られていません。大分市教育委員会が進めようとしている性急な導入に「待った」をかけるために、学校・地域で小集会を持ち、一緒に議論していきましょう。御連絡ください。

学校選択制を考える会